



リモート プレゼンスの管理

- ・
- ・ [仮想 KVM の管理 \(1 ページ\)](#)
- ・ [Serial over LAN の管理 \(4 ページ\)](#)

仮想 KVM の管理

KVM コンソール

KVM コンソールは CIMC からアクセス可能なインターフェイスであり、サーバーへのキーボード、ビデオ、マウスの直接接続をエミュレートします。KVM コンソールを使用すると、リモートの場所からサーバーに接続できます。サーバーに物理的に接続された CD/DVD ドライブを使用する代わりに、KVM コンソールは仮想メディアを使用します。これは、仮想 CD/DVD ドライブにマップされる実際のディスクドライブまたはディスクイメージファイルです。次のいずれでも仮想ドライブにマップできます。

- ・ お使いのコンピュータ上の CD/DVD
- ・ コンピュータ上のディスク イメージファイル (ISO または IMG ファイル)
- ・ コンピュータ上の USB フラッシュ ドライブ

KVM コンソールを使用して、サーバーにオペレーティング システムまたはハイパーバイザをインストールし、次の作業を行うことができます。

- ・ ブートアップ中に **F2** を押して、BIOS セットアップ メニューにアクセスします。
- ・ 起動中に [F6] を押して、[BIOSブート (BIOS Boot)] メニューにアクセスします。
- ・ ブートアップ中に **F8** を押して、CIMC Configuration Utility にアクセスします。

仮想 KVM の設定

始める前に

仮想 KVM を設定するには、`admin` 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# <code>scope kvm</code>	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # <code>set enabled {yes no}</code>	仮想 KVM をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # <code>set kvm-port port</code>	KVM通信に使用するポートを指定します。
ステップ 4	Server /kvm # <code>set local-video {yes no}</code>	ローカルビデオが [yes] である場合、KVMセッションはサーバーに接続されているすべてのモニターにも表示されます。
ステップ 5	Server /kvm # <code>set max-sessions sessions</code>	許可されている KVM の同時セッションの最大数を指定します。 <code>sessions</code> 引数の値は、1～4 の範囲の整数になります。
ステップ 6	Server /kvm # <code>commit</code>	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 7	Server /kvm # <code>show [detail]</code>	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM を設定し、その設定を表示する例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# set kvm-port 2068
Server /kvm *# set max-sessions 4
Server /kvm *# set local-video yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show detail
KVM Settings:
  Max Sessions: 4
  Local Video: yes
  Active Sessions: 0
  Enabled: yes
  KVM Port: 2068

Server /kvm #
```

次のタスク

GUI から仮想 KVM を起動します。

仮想 KVM のイネーブル化

始める前に

仮想 KVM をイネーブルにするには、**admin** 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope kvm	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # set enabled yes	仮想 KVM をイネーブルにします。
ステップ 3	Server /kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM をイネーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled yes
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Local Video      Active Sessions  Enabled      VM Port
-----
yes              0                yes          2068

Server /kvm #
```

仮想 KVM のディセーブル化

始める前に

仮想 KVM をディセーブルにするには、**admin** 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# scope kvm	KVM コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /kvm # set enabled no	仮想 KVM をディセーブルにします。 (注) 仮想 KVM をディセーブルにすると仮想メディア機能へのアクセスがディセーブルになりますが、仮想メディアがイネーブルであれば仮想メディア デバイスは切断されません。
ステップ 3	Server /kvm # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 4	Server /kvm # show [detail]	(任意) 仮想 KVM の設定を表示します。

例

次に、仮想 KVM をディセーブルにする例を示します。

```
Server# scope kvm
Server /kvm # set enabled no
Server /kvm *# commit
Server /kvm # show
Local Video      Active Sessions  Enabled  KVM Port
-----
yes              0                no       2068

Server /kvm #
```

Serial over LAN の管理

Serial over LAN

Serial over LAN (SoL) は、IP を介した SSH セッションを利用して、管理対象システムのシリアルポートの入力と出力をリダイレクトできるようにするメカニズムです。SoL は、CIMC 経由でホスト コンソールに到達するための手段となります。

Serial Over LAN に関するガイドラインおよび制約事項

SoL にリダイレクトするには、サーバー コンソールに次の設定が含まれている必要があります。

- シリアル ポート A へのコンソール リダイレクション

- フロー制御なし
- ボー レートを SoL と同様に設定
- VT-100 terminal type
- レガシー OS リダイレクションをディセーブル

SoL セッションは、ブートメッセージなどの行指向の情報や、BIOS 設定メニューなどの文字指向の画面メニューを表示します。サーバーで Windows などのビットマップ指向表示のオペレーティングシステムやアプリケーションが起動されると、SoL セッションによる表示はなくなります。サーバーで Linux などのコマンドライン指向のオペレーティングシステム (OS) が起動された場合、SoL セッションで適切に表示するために OS の追加設定が必要になることがあります。

SoL セッションでは、ファンクションキー F2 を除くキーストロークはコンソールに送信されます。F2 をコンソールに送信するには、Escape キーを押してから 2 を押します。

Serial over LAN の設定

始める前に

SoL を設定するには、admin 権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server # scope sol	SoL コマンド モードを開始します。
ステップ 2	Server /sol # set enabled {yes no}	サーバーで SoL をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	Server /sol # set baud-rate {9600 19200 38400 57600 115200}	システムが SoL 通信に使用するシリアル ボー レートを設定します。 (注) このボー レートは、サーバーのシリアル コンソールで設定したボー レートと一致する必要があります。
ステップ 4	Server /sol # commit	トランザクションをシステムの設定にコミットします。
ステップ 5	Server /sol # show [detail]	(任意) SoL の設定を表示します。

例

次に、SoL を設定する例を示します。

```

Server# scope sol
Server /sol # set enabled yes
Server /sol *# set baud-rate 115200
Server /sol *# commit
Server /sol # show
Enabled      Baud Rate(bps)  Com Port  SOL SSH Port
-----
yes          115200          com0      2400

Server /sol #

```

Serial Over LAN の起動

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	Server# connect host	リダイレクトされたサーバー コンソール ポートへの SoL 接続を開始します。このコマンドは、どのコマンド モードでも入力できます。

次のタスク

Ctrl キーと **X** キーを押して SoL から切断し、CLI セッションに戻ります。



(注) SoL をイネーブルにすると、シリアルポートからの出力がリダイレクトされます。このため、Cisco IOS CLI を使用してホストのセッションに入ろうとすると、出力は表示されません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。